

## 平成 24 年度 第 3 回 まちづくり審議会 議事要旨

日 時 平成 25 年 1 月 21 日 ( 月 ) 15 : 00 ~ 16 : 10  
場 所 兵庫県民会館 3 階 304 号室  
出席者 荏原明則委員、片桐新之介委員、片山朋子委員、住友聡一委員、  
千種和英委員、鳴海邦碩委員、根本敏行委員、浜田透委員、平田富士男委員、  
室崎千重委員、森津秀夫委員、伊藤傑委員、酒井隆明委員

### 1 議事の概要

互選により鳴海委員を会長に選任。

互選により荏原委員及び根本委員を副会長に選任。

また、事故があるとき等に会長の職務を代理する順位として、荏原副会長を第 1 順位、根本副会長を第 2 順位として、会長が指定。

大規模小売店舗等立地部会に属すべき委員として、荏原副会長、根本副会長、片山委員、住友委員、浜田委員、樋口委員、森津委員を会長が指名。

また、部会長として、荏原副会長を会長が指名。

「まちづくり基本方針の改定について(答申案)」を事務局よりパブリックコメントの状況や答申案の説明を行い、その後意見交換。答申案については、概ね了承。本日の意見交換を踏まえた資料の修正については、鳴海会長に一任することとなった。

「まちづくり資料集について」を事務局から説明を行い、意見交換を実施。

### 2 主な意見交換

#### ・ まちづくり基本方針の改定について(答申案)

##### 【委 員】

まちづくりの方向性を、4つの地域、4つのテーマで4×4に分類している。整理されているという意味では見やすいが、過去の議論では、地域と地域間の連携にも留意するべきという意見があった。

同様に、4つのテーマについても、分類はしたけれども密接不可分に関わっているということが表現されていると良い。4つのテーマに分けているが、相互に連携し、県の全域が望ましい未来に向かうというプレゼンテーションができると良い。

##### 【事務局】

4つのテーマの説明のところに記述を加える修正を行う。

##### 【委 員】

どんな人がまちづくりをやっていくのか分かりやすくするために、テーマごとに、それぞれの活動家はこんな人をイメージしている、ということ表現してはどうか。

##### 【事務局】

今回のまちづくり基本方針では、個々の主体が何をするのかという概要を記述している。

具体的な記述は、別途作成するまちづくり事例集において、様々な地域で活躍している団体を紹介予定である。事例集にあがっている事例から、どういう人たちがまちづくりを推進するのかという具体的なイメージを持ってもらえるので、県民に対するメッセージになると考えている。

##### 【委 員】

「時代認識」・「時代背景」という言葉が気になる。少し距離を置いて、客観的に眺めているようなイメージがある。

**【委員】**

よく使われる言葉は、「社会背景」「社会・経済的背景」というものがある。

**【委員】**

パソコンを使えない県民への広報はどのように考えるのか。

**【事務局】**

一般県民への周知としては、パンフレットを作成し配布する予定である。ホームページからのダウンロードや、イベントでの配布を想定している。

パブリックコメント時は、A4版のプリンターに対応するため、A3版の資料をA4版に分割したファイルを掲示した。できあがった基本方針を同様の方法を考えている。

**【委員】**

行政が作った方針を住民に周知するのは大変難しい。広報誌に載せても詳しくは見てもらえないし、ホームページに載せても高齢者はまったく見ない。今回の基本方針も、せっかく作ったものなので、簡潔にわかりやすく県民に知っていただくことが大事だと考える。

基本方針には、他分野にまたがっており、各部署や市町がこのような方向性でやっていること意見をまとめていけるのかが心配である。どう実行していくかを考えないといけない。

・ まちづくり資料集について

**【委員】**

事例集をどうやって現場に普及浸透させるかが一番重要な課題である。誰もがアクセスできるプレゼンテーションを心がける必要がある。

一番普及しているパソコンの基本ソフトがタッチパネル方式に変わりつつあるが、目の不自由な方には使いにくく、ユニバーサル観点からはあまり進められるものではない。複数のアクセス手段を準備することを期待されている。

**【委員】**

事例集のURLについてであるが、ホームページの更新が頻繁に行われているものもあるので、細かいところまで書かない方がいいのではないかと。

**【委員】**

事例集(案)について、県外の事例がたくさん紹介されているが、近隣でより頑張っているところの事例を取り上げる方が、ファイトがわくだろうし、交流もしやすい。

作成方針として、県内で頑張っている地域をまず紹介し、すでに取り組んでいる地域と、これから取り組もうとする地域が交流を深められるような内容にするべきはないか。

**【事務局】**

検討し反映する。県内のまちづくり事例のソースとしては、人間サイズのまちづくり賞を10年以上やっているのだから、近年のものをピックアップしているが、もう少し幅広に考えて増やしていきたい。事例集は、一度作成してFIXさせるということではなく、今後も増えていくし、随時変わっていくと考えている。

**【委員】**

資料集(案)にはまち並み保存の取組で津軽の例が載っている。しかし、まち並み保存で

地域の再生を行っている例は、兵庫県内にも出石などの例があるので、身近な事例に変えることが考えられる。

一方で、ドイツのダウンゾーニングの事例が載っているが、こういう先進事例で他地域から引用せざるを得ないものは掲載する意味がある。

#### 【委員】

防災について、東北の震災復興の事例が挙がっているが、まだ進行中だ。むしろ、和歌山県や高知県などの震災に備えて事前に取り組んでいるところの方が、兵庫県にとってはリアリティがあるのではないか。

県内の類似の取組事例は、事例集のマトリックス表に項目だけでもすべて入れてはどうか。そうすると、どこが手薄なのかが見えてくるのではないか。

#### 【委員】

放置空き家の問題について、空き家条例による解体代執行の例があるが、代執行した後どうするのかまで記述する方がよい。空き家をつぶしたその跡地をどうするのかを含めて考えることが、まちづくりとしては重要である。

また、河川について、県では総合治水条例をつくっており、河川がまちづくりにどう影響するかも書いたらいいと思う。

#### 【委員】

地域で活動をしている方々は、横の連携がなかったり、隣近所が何をしているか知らなかったりということが多々ある。

大阪では、活動家同士のプラットフォームを自主的にやっていて、その中で行政と意見交換することを3ヶ月に1回ペースで行っている。京都では京都府が主体的に100人会議という名称のものを創っている。

事例集にとどまらず、ポータルサイトのような形を考えたらどうか。

#### 【事務局】

参画・協働関係の部局と協議して、ひょうごボランタリープラザ等との連携を考えたい。

#### 【委員】

いろんな事例を集めるのはよいが、コストも労力もかかる。

むしろ県のそれぞれの部局が持っている事例集をリンクすることで、事例を増やしたらどうか。

#### 【委員】

事例集は非常に大事だと思う。

ただ、最初のところでマトリックスで分けられているが、一般市民や行政職員がすぐに理解できるのか心配である。

#### 【委員】

専門的な知見を交えてWEBサイトをつくると思うので、その時に気をつければよい。

例えば、どこの大学のWEBサイトでも、だんだん洗練されてきているが、入口部分で人の属性ごとわかれている。

今度事例の紹介としてつくるWEBサイトでは、「市民のみなさん」、「NPO団体のみなさん」、「行政職員のみなさん」など、入口で属性を分けて、「市民のみなさん」から入ると、市民が中心になっている活動が浮かび上がってくる、というような設計も考えられる。